

会計専門コース2年
藪波 由布佳

試験対策

前回の論文式試験が不合格だったことを受けて、予備校のテキストを中心に初心に戻って基礎を固めることを重視しました。そのおかげでテキストの理解が深まり、予備校の答練や全国模試で点数がとれるようになりました。特に管理会計と監査論は、本試験の成績が昨年より大幅に伸びました。また、財務会計は計算力を維持すると共に、理論のテキストを毎日読み込みました。私は企業法が苦手だったので、自分の書いた答案を先生に適宜見てもらっていました。

会計研の授業で試験に生かされたと思うのは、原価計算と財務会計各論Ⅰ、監査のワークショップです。特に財務会計各論Ⅰでは、財務会計の理論に関する知識を、横串を入れるように横断的に学んだことで、別の角度の視点から試験問題を考える力が身についたと思います。また原価計算でも、単に計算方法を覚えるのではなく、「どうしてこのように計算するのか」という背景を丁寧に学べたことで、管理会計に対する理解が深まったと感じました。

入学検討中の方へのメッセージ

公認会計士試験に合格することだけが目的なら、予備校での勉強だけでも足りると思います。しかし私は、会計研究科に入学したことで、試験に関する知識が深まっただけでなく、将来の仕事につながる勉強ができ、良かったと思っています。

例えば、租税法においても予備校では計算テクニックを中心に教わりますが、会計研では税が導入された背景や損金計上をめぐる裁判、実務での扱いなどより深い領域まで学べます。これにより、自分の租税に対する視野が広がったと感じています。その他にも、国際会計基準やIPOなど、試験に受かった後の実務に関する内容を学べたことは今後の自分の会計士の仕事に生きると思っています。

試験勉強と授業の両立は大変なこともありますが、これらのように会計士試験や今後の実務につながる学びが得られるのが会計研究科の良いところだと私は思います。みなさんのおかれた状況は様々だと思いますが、自分の将来を見据えながら進路を選択されると良いと思います。

会計専門コース1年
梅津 尚弥

試験対策

私が試験対策で重視していた点は、基本問題を取りこぼさないように日頃から学習することです。公認会計士試験は相対試験のため、受験生の大多数が得点できないような難問は解けなくても何ら問題ありません。一方で、大多数が得点できる基本的な問題を取りこぼすことは大きな痛手となります。この性質を考慮し、難問の出題可能性・解けるようにする労力と基本問題の出題可能性・解けるようにする労力を比較すると、後者に力を注ぐことが合格への近道と言えると思います。具体的には、テキストと答練における所謂A論点・B論点を中心に勉強しており、重要性の低いC論点は連結会計以外ほとんど手を付けないというスタイルで勉強していました。以前の私は、基本問題の重要性に対する認識が甘く、二度論文式試験に不合格となりました。不合格年度は基本問題を疎かにしており、本番でほとんどの受験生が得点するような基本問題でかなりの取りこぼしをしていました。基本問題を仕上げるだけで、受験生の中の上位に行くことができ、合格圏内に到達することができます。現在合格に向けて学習をされている方は、基本問題こそ大切にしたいと思っています。

また、他には租税法の計算と財務会計論の計算も重視して学習していました。論文式試験においては、理論問題の採点基準は不明瞭ですが、計算問題の採点基準は明確です。そのため、計算能力を高めることが合格可能性を効率的に高めることに繋がると考え、理論の学習よりも計算の学習に力を入れて取り組んでいました。このように優先順位をつけて勉強していたことが結果に繋がった要因だと思います。

後輩へのメッセージ

様々な会計研究科の魅力のうち、入学後私が特に魅力を感じたのはモチベーション高く勉強に励んでいる人が多い点です。会計研究科の学生の多くが目指す公認会計士試験は難関試験であり、一人で勉強し続けて合格することも可能ではありますが、非常に困難です。私が二度不合格を経験した当時は、一人で勉強しており、モチベーションの維持に酷く苦勞していました。しかし、会計研究科入学後は、周りに触発されて以前よりも圧倒的に勉強するようになりました。きっと、周りの学生も同じように刺激を受けて勉強しており、頑張る人が頑張る人を生み出す好循環が生じているのだと思います。その中で勉強仲間を見つけ、勉強についての疑問点を聞き合い消化しながら過ごす日々はとても充実したものでした。

是非会計研究科で目標に向けて努力する仲間を見つけ、自身の夢を叶える一歩を踏み出してください。応援しています。